

カーボン・オフセットと観光・交通型のオフ セット取組事例について

平成25年6月

環境省地球環境局地球温暖化対策課

市場メカニズム室

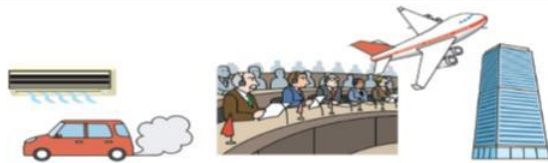
①カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは？

【定義】

市民、企業等が、

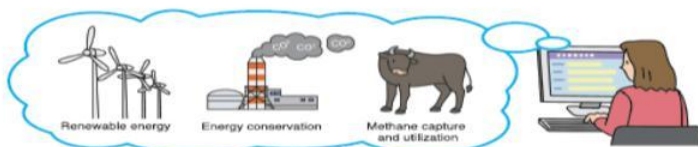
- ①自らの温室効果ガスの排出量を認識し、
- ②主体的にこれを削減する努力を行うとともに、
- ③削減が困難な部分の排出量を把握し、
- ④他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等(クレジット)の購入、他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動の実施等により、③の排出量の全部又は一部を埋め合わせる。



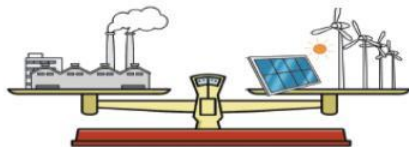
家庭やオフィス、移動(自動車・飛行機)での温室効果ガス排出量を把握する



省エネ活動や環境負荷の少ない交通手段の選択など、温室効果ガスの削減努力を行う



削減が困難な排出量を把握し、他の場所で実現したクレジットの購入または他の場所での排出削減活動を実施

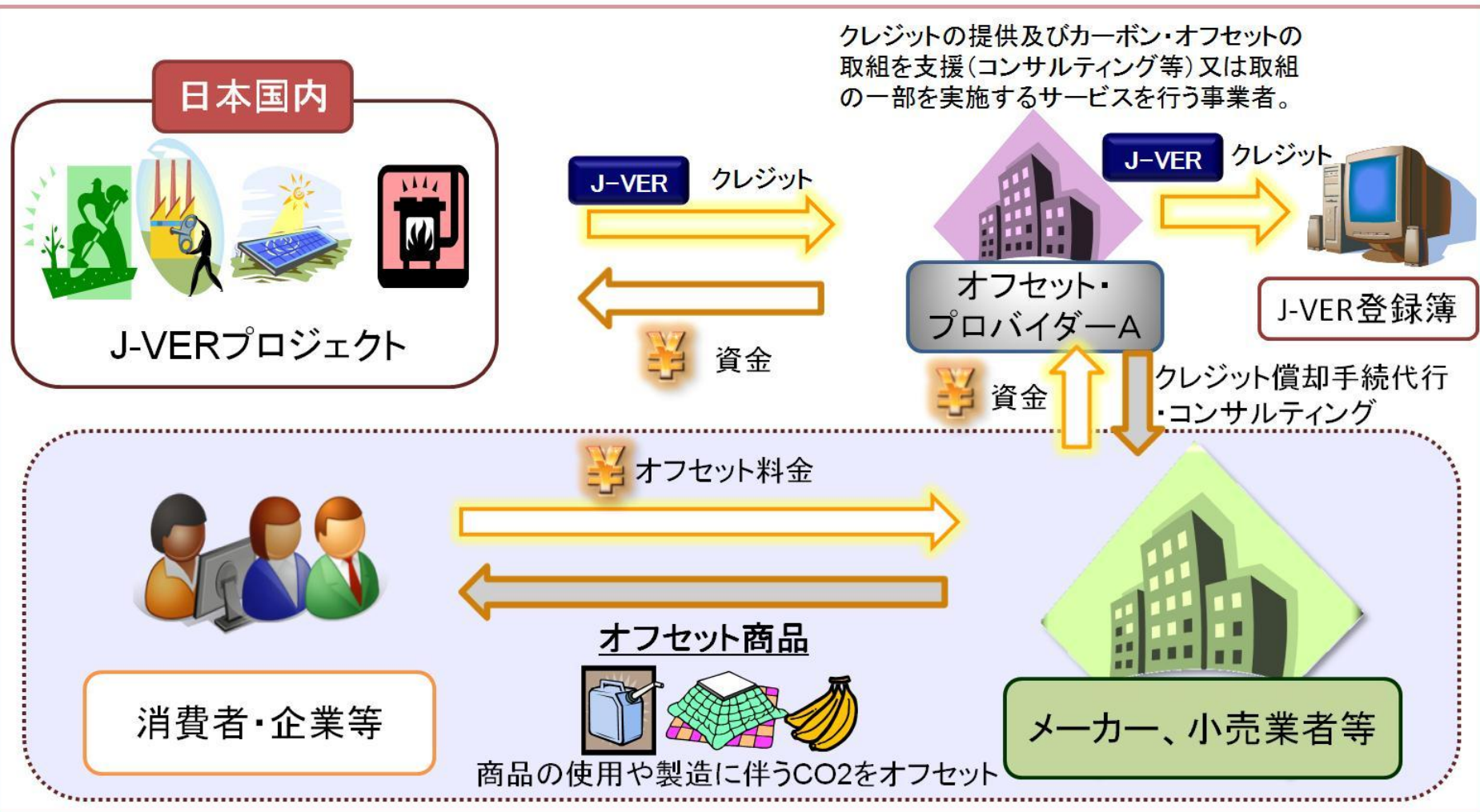


対象となる活動の排出量と同量のクレジットで埋め合わせ(相殺)する

カーボン・オフセットの仕組み

カーボン・オフセット型商品・サービス(J-VERを活用した場合)を例に

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等が商品を使用したり、サービスを利用したりする際に排出される温室効果ガス排出量について、当該商品・サービスと併せてクレジットを購入することでオフセットするもの

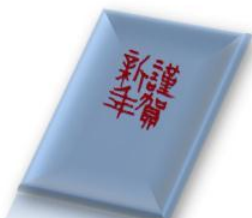


カーボン・オフセットの効果と取組事例

2013年1月現在、報道発表ベースでの取組件数は累計1,211件。

カーボン・オフセットに取り組む企業等から、国内で削減等のプロジェクトを行う事業者へ資金が還流することにより、さらなる排出削減の促進だけでなく、国内投資の促進や雇用の確保、それらを通じた地域活性化への貢献も期待される。

カーボン・オフセット年賀状



年賀状購入者の生活に伴って排出されるCO2の一部をオフセット

ANAカーボン・オフセットプログラム



飛行機(国内線)の利用距離に応じて、排出されるCO2をオフセット

会議・イベントのオフセット



国際会議などで、会場の電力使用や出席者の飛行機利用に伴う排出をオフセット

地域活性化への貢献



バイオディーゼルをバス運行の燃料に利用し、そこから生まれるクレジットの収益により、北海道当別町のバス経営が安定化

震災復興におけるカーボン・オフセットの活用



岩手県釜石地方のクレジットをオフセットに使用し、被災地に資金が流れる仕組みを構築

カーボン・ニュートラル



企業活動に伴う排出量を全量オフセットするカーボン・ニュートラルの取組が始まる。

カーボン・オフセットの意義・効果

1. 社会を構成するあらゆる主体によるCO2削減行動の推進

■地球温暖化の防止が社会全体で取り組むべき課題であるとの認識の下、カーボン・オフセットの取組を通じ、

「排出量の見える化 → 自分ごと化 → 削減努力 → 削減しきれない排出量の埋め合わせ」

という流れを作り出すことで、市民、企業、NPO/NGO、地方公共団体、政府等様々な主体が、それぞれ温室効果ガスを排出していることを認識するとともに、その削減に取り組み、ライフスタイルや事業活動を低炭素型にシフトしていく契機となる。

2. 国内外の温室効果ガス削減等プロジェクトへの資金還流

■国内外の温室効果ガスの排出削減・吸収を実現するプロジェクトの資金調達に貢献する。

■特に、オフセット・クレジット(J-VER)を活用することにより、カーボン・オフセットに取り組む企業等から、国内で削減等プロジェクトを行う事業者へ資金が還流することとなり、国内投資の促進や雇用の確保、それらを通じた地域活性化にも貢献することが期待される。

3. 温室効果ガス削減を含めた環境保全上の複数の効果の同時実現

■カーボン・オフセットの取組やクレジット創出プロジェクトの実施により、温室効果ガスの排出削減・吸収のみならず、同時に、廃棄物の減量や適正処理の推進、植林・森林保全やそれを通じた生物多様性の保全等、環境保全上の複数の効果(コベネフィット)が実現しうる。

カーボン・オフセットに関連する2つの制度



【カーボン・オフセット制度】

・カーボン・ニュートラル認証プログラム



カーボン・ニュートラル企業を認証。

・カーボン・オフセット認証プログラム



カーボン・オフセット商品・サービス、イベント等を認証。



【オフセット・クレジット (J-VER) 制度】

・J-VER認証

国内の排出削減・吸収量のクレジット認証及び発行

・都道府県J-VERプログラム認証

都道府県の制度のうち、J-VER制度と整合する制度をプログラムとして認証。

⇒H25年度より【J-クレジット制度】

カーボン・オフセット制度



温室効果ガス排出量
を知る(計る)

温室効果ガス排出量
を減らす努力をする

どうしても減らせない排出量をク
レジットで埋め合わせ



カーボン・オフセット認証(企業活動、商品、イベントを対象)

- ・上記の3つのステップごとの基準を満たしたオフセットの取組を認証する。
- ・認証された取組は、オフセットラベルを使用することができる。



カーボン・ニュートラル認証(企業活動を対象)

- ・上記の3つのステップごとの基準を満たしたニュートラルの取組を認証する。
ただし、ステップごとの基準はオフセット認証よりも厳しい。
STEP1: 自らの責任と定めることが一般に合理的と認められる範囲の排出量**全部を算定**
STEP2: 削減努力は**定量的に評価**
STEP3: STEP1で算定した排出量は**全量オフセット**
3つのステップが基準を満たしているかどうか**ISO認定取得機関が検証を行う**
- ・認証された取組は、ニュートラルラベルを使用することができる。

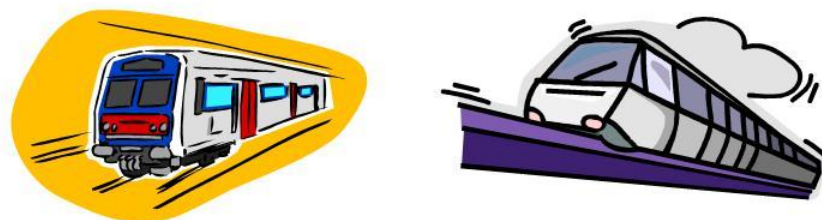
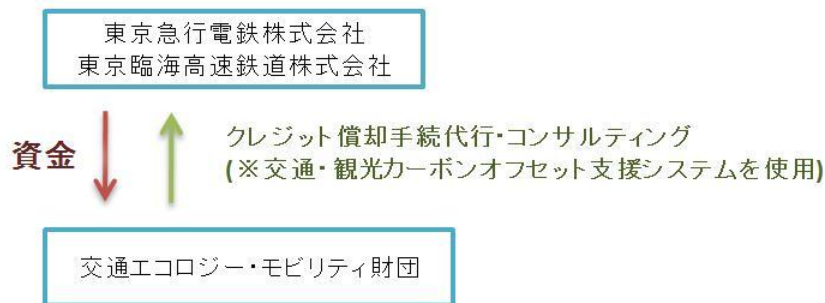
②観光・交通におけるカーボン・オフセットの取組事例 (J-VERの活用)

震災復興におけるJ-VERの活用事例 [環境イベント+震災復興]

東京急行電鉄株式会社・東京臨海高速鉄道株式会社の取組

「東急お台場パス」購入によるカーボン・オフセット

東京急行電鉄株式会社と東京臨海高速鉄道株式会社は、「東急お台場パス」にカーボン・オフセットを組み合わせた乗車券の販売を行う。この取組では、「東急お台場パス」を購入して東急線とりんかい線を利用する利用者が鉄道利用によって排出するCO2推計6.5tを削減するために必要な費用を、東急電鉄と東京臨海高速鉄道で負担するもので、東日本大震災で被災した釜石地方森林組合の森林事業を使用してオフセットされる。



特典

- ・東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ2011の「交通エコロジー・モビリティ財団ブース」で乗車券を提示すると、ノベルティグッズをプレゼント
- ・大井町線大井町駅改札口で乗車券を提示すると、ノベルティグッズをプレゼント

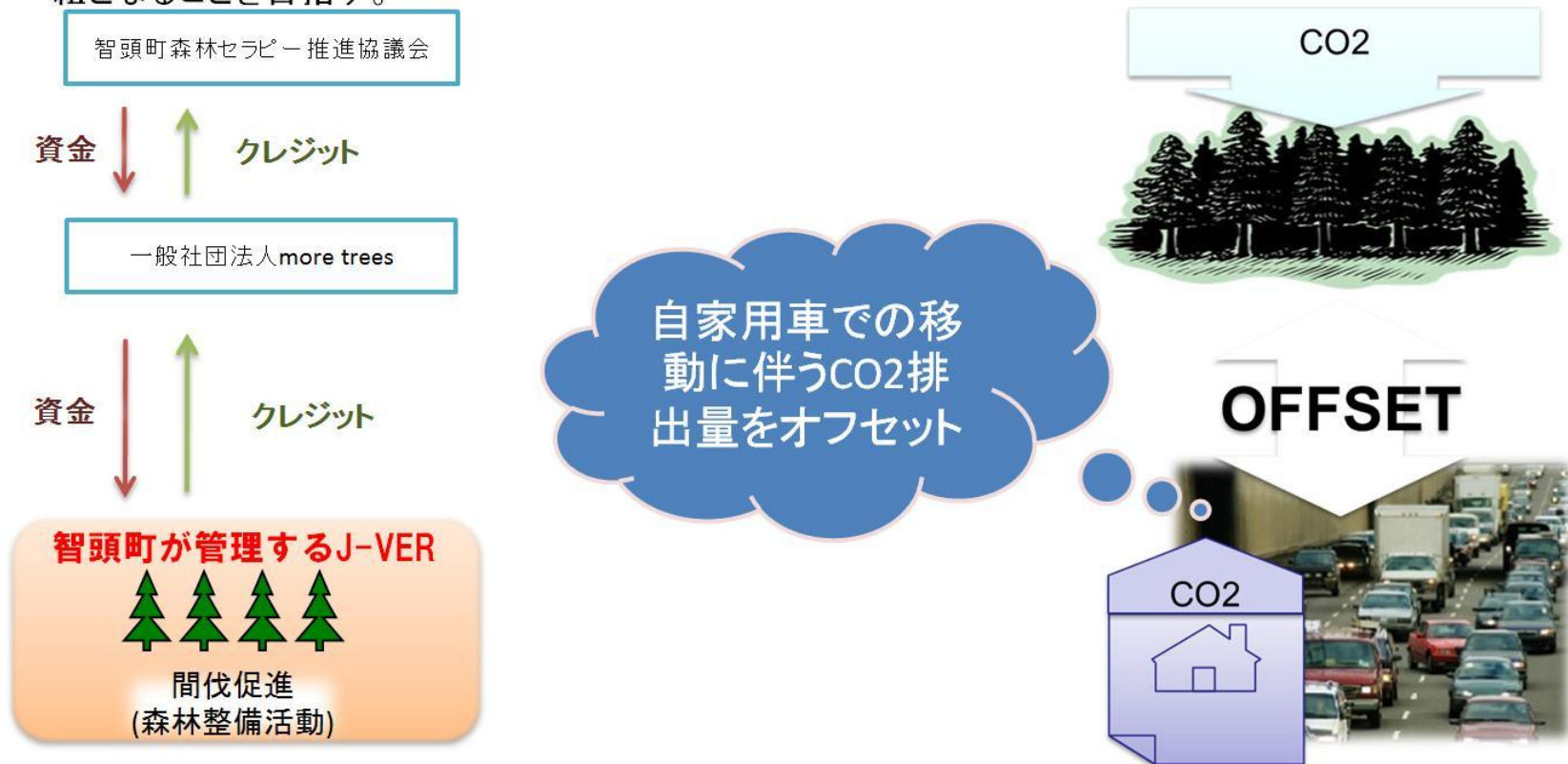
J-VERを活用したヘルスツーリズム型カーボン・オフセットの事例

鳥取県智頭町の取組

智頭町森林セラピーツアーのカーボン・オフセット

鳥取県智頭町にて展開中の森林セラピーツアーにおいて、ツアー参加時の移動に伴うCO₂排出量(想定量)の一部を智頭町の森林吸収源J-VERを活用してオフセットすることで、森林資源の有効活用を促し、地域とその森林を持続的に保全する取組として展開。

森林を大切な財産ととらえ、木質資源の生産場としての役割に加えて森林セラピーを町づくりのメインテーマの1つとして取り組んでいる智頭町において、J-VERや癒し効果という新しい森の恵みを最大限活用した取組となることを目指す。



J-VERを活用したスポーツ観光型カーボン・オフセットの事例

ブランシュたかやまの取組

スキー場来場者のカーボン・オフセット

平成24年12月8日からオープンするスキー場において、来場されるお客様にカーボンオフセットの実務学習を含めたエコ教室を開催します。

なお、プログラム参加予定者(5,000名を想定)の方のご自宅から施設までの移動に伴う環境負荷の一部(4kg・CO₂)を、カーボン・オフセットします。



【エコプログラム】



受講者にはカーボンオフセットの講座を受けて頂き、森林保全に取り組んで頂きます。受講された方にはオフセットステッカーをプレゼント。

オフセット教室
知って・減らして・オフセット



1人4kgをオフセットした、カーボンオフセット認証マーク入りステッカーを配布

ブランシュ
たかやま
スキーリゾート
オフセットステッカー



受講者にはカーボンオフセット認証マーク入りのステッカーを配布し、エコの証として使用して頂きます。また受講者には夏のブランシュで自然体験を通じた森林保全や家庭のCO₂削減にも取り組んで頂きます。

【オフセット】



ご自宅からスキー場までの移動に伴う環境負荷の一部をオフセットします。

【持続性・リポート】



地域(長野県)のJ-VER
クレジットでカーボンオフセット!

J-VERを活用したエコツーリズム型カーボン・オフセットの事例

JR東日本 新潟支社の取組

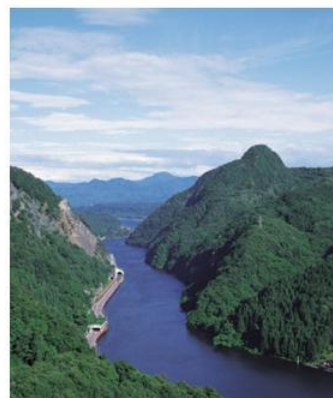
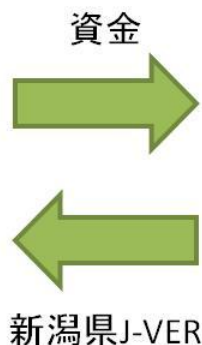
「SLばんえつ物語」号のカーボン・オフセット

JR東日本 新潟支社では、新潟駅～会津若松駅(福島県)間で運行している「SLばんえつ物語」号でカーボン・オフセットを実施。運行により排出されるCO2の一部をSL沿線の阿賀町で実施されている森林間伐プロジェクトにより創出された「新潟県J-VER」を購入してオフセット。

また、SL車内のイベントスペース(展望車両)において、車窓から実際の森林を眺めながら、阿賀町の森林間伐プロジェクトの必要性やカーボン・オフセットの取組について、乗客への説明を実施した。



「SLばんえつ物語」号での取組
(JR東日本)



「阿賀悠久の森」間伐事業
(阿賀町)



- SL車内のイベントスペース(展望車両)において、森林間伐とカーボン・オフセットについての説明会を開催
- カーボン・オフセットの取組に理解をいただいた乗客からの募金を実施(募金により追加で新潟県J-VERを購入)

- SL沿線の森林整備で創出されたJ-VERを活用した地産地消の取組
- 森林を眺めながらの森林整備とカーボン・オフセットの説明により、乗客への取組のPR効果がUP

J-VERを活用したカーボン・オフセットの事例 [地域インフラを支えるJ-VER]

当別町と全日本空輸株式会社の取組

「使用済みてんぷら油」を使った当別ふれあいバスの運行

当別町では、官民共同運行のコミュニティバス「当別ふれあいバス」が平成18年度から走っている。ふれあいバスでは、町内企業・住民から回収した「使用済みてんぷら油」から精製した、バイオディーゼルをバス運行の燃料に利用。さらに、そこから生まれるJ-VERを収益化することで、バス経営を安定化。

当該J-VERは環境町づくりパートナーズ協定を結ぶ全日本空輸株式会社が2010年度発行分を全量購入し、その一部は、同じ北海道で行われるゴルフトーナメント「ANAオープン」の送迎バス運行から排出されるCO2のオフセットに利用されている。

北海道当別町

軽油に代替し、当別町内で回収した「使用済みてんぷら油」から精製したBDFを使用することでCO2排出削減を行い、クレジット化。経費削減とクレジット収入によるバス経営の安定化を図る。



株式会社エコノス (あんしんプロバイダー制度参加事業者)

プロジェクト申請から、モニタリング、認証登録までの諸々の手続きを一貫して支援。さらに、当別町と全日本空輸株式会社をマッチングし環境町づくりパートナーズ協定の締結を支援。



全日本空輸株式会社

ANAグループは、「環境面でも世界トップ水準のリーディング・エアラインであり続ける」という思いの下、「ANAグループ エコロジープラン2008-2011」を策定し、実行している。

企業価値向上 (CO2削減、当別町の取組への支援等)、町の環境活動推進・PR、地域経済の活性化を実現し、J-VERを軸とした環境と経済の両立という好循環を確立。



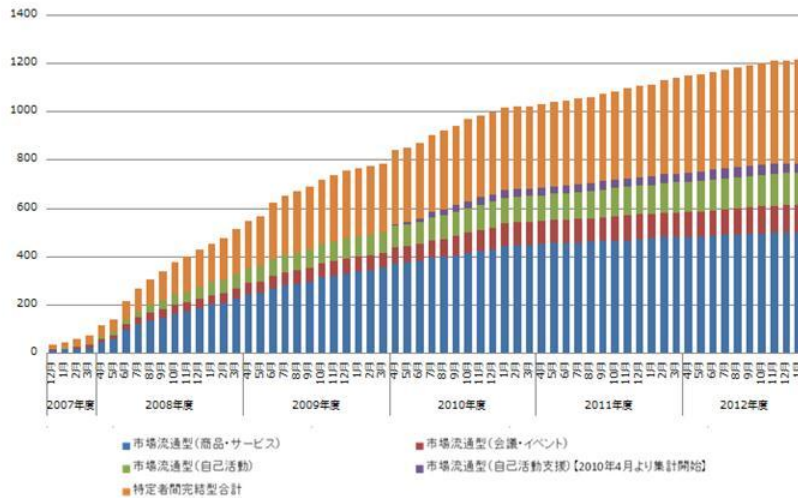
- 地域住民へのバス利用の呼びかけ、児童・生徒への環境教育によって町民の環境意識を向上させバスの利用者を増やす取組みをJ-VERを通じて企業がサポート
- ⇒ 地域住民の町やバスへの愛着が増し、利用者が増えるという好循環実現

③カーボン・オフセットの現状と課題

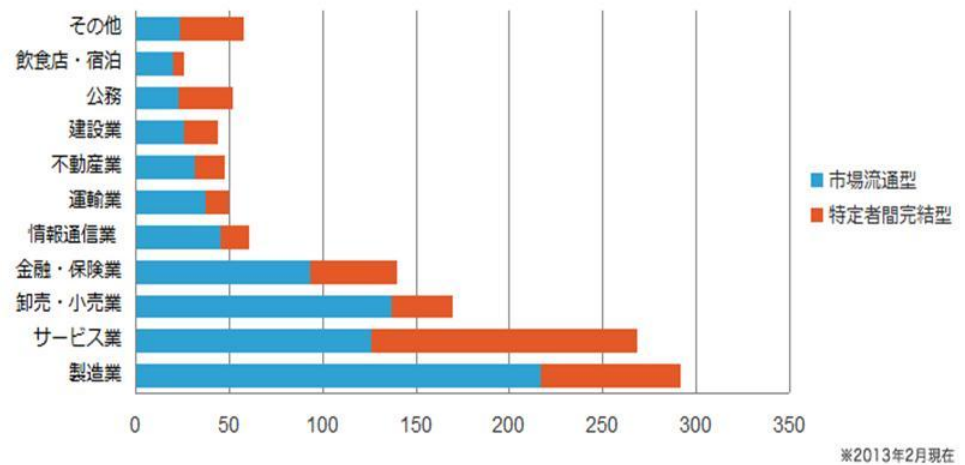
カーボン・オフセットの取組現状(件数)

- カーボン・オフセットの取組は、東日本大震災以降、増加傾向から頭打ちに。
(※環境省のカーボン・オフセット制度を活用しているものは、そのうちの約40%)
- 商品使用やサービス利用に伴い排出されるGHGをオフセットする取組が半数以上を占める。
- カーボン・オフセットに活用されるJ-VER、国内クレジットの量は年間で約10万t-CO₂。

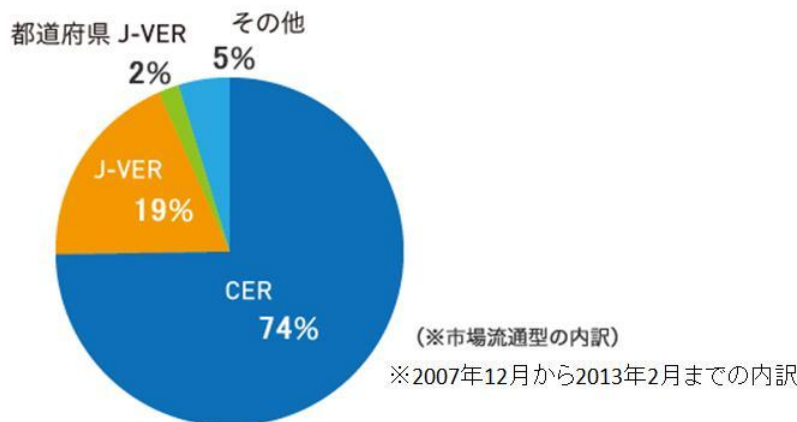
○カーボン・オフセット取組状況



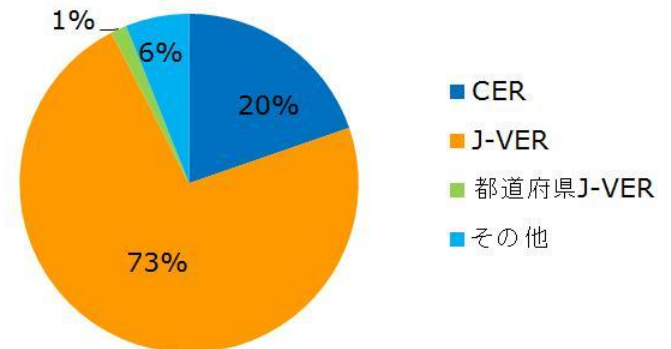
○業種別取組み件数



○カーボン・オフセット事例における使用クレジット



○左のうち、2011年度のカーボン・オフセット事例における使用クレジット



カーボン・オフセットの普及に向けた課題

○主たるオフセット主体である企業の意識変化

- ・CSR活動:「温暖化対策」から「復興支援」に関心がシフト
- ・京都議定書第二約束期間不参加による温暖化対策の必要性意識の低下

○企業の行動を支える市民レベルでの浸透が脆弱

- ・カーボン・オフセットの仕組みに関する理解が不十分。
取組意識と具体的行動をうまく繋げる役割を果たしていない。
(例えば、「空気を買う」という一面的な理解しかない)
- ・その結果、海外でのカーボン・オフセット状況(FIFAサッカーワールドカップ、五輪など国際的イベントで実施)と比べ、国内での低い関心

⇒「カーボン・オフセット」の浸透が不可欠

- ・ボランティアな取組であり、実施企業等の積極性を評価できる仕組み構築
- ・イベントや広報を通じ、カーボン・オフセットの内容や優良事例紹介について、
今までよりもさらに、アクションをおこしていく

④今年度のカーボン・オフセット関連施策 について

今年度の環境省カーボン・オフセット関連施策のポイント①

カーボン・オフセットの取組、クレジットの活用先を拡大させるため、以下の3点について力を入れて取り組む。

1. 地域におけるカーボン・オフセットの推進

実務者及びオフセット・プロバイダー向けの研修機会を拡充するとともに、各地域の拠点となる特定地域協議会の活動支援を拡充することで、北海道、中部地域につづくカーボン・オフセット先進地域を育成する

2. カーボン・マーケットEXPOの活性化

新規出展者及び来場者の増加、さらにマッチング件数の増加に結びつけるために、農林水産業や物流などカーボン・オフセットの動きが広まっている業界については業界ごとにPRするなど、EXPOの活性化に向けて戦略的にはたらきかける

3. 環境省主催イベント等の積極的なオフセット化

環境省主催のイベントや会議について、できるところから率先してカーボン・オフセットすることで、民間の取組への波及を狙う

➤ 1. 地域におけるカーボン・オフセットの推進

研修会や地域協議会の活動支援等について拡充を行う

実務者向け研修：全国5ヶ所→7ヶ所程度を想定

プロバイダー向け研修：全国5ヶ所→8ヶ所程度を想定

特定地域協議会の活動支援：300万円/件から増額する方向で調整中

各地でのオフセット推進に、プロバイダーの活躍は不可欠。
⇒昨年度好評だった実務者及びプロバイダー向けの研修会の開催箇所を増やすとともに、内容もより実践的なものを検討中。



2. カーボン・マーケットEXPOの活性化

3. 環境省主催イベント等の積極的なオフセット化 ⇒合わせて実践的取組を予定。

今年度のカーボン・オフセット関連施策(予定)

「事業者の活動促進」「消費者への理解の促進」は今年度も重要な課題と位置づけ、事業者向けには各種支援事業を通じた活動促進を、消費者向けには全国のイベント開催・出展を通じた普及活動を継続。

認証取得支援

- **カーボン・オフセット及びカーボン・ニュートラル認証取得支援事業の継続実施。**
→ 昨年度までに引き続き、それぞれの認証取得等にかかる経費の支援を実施。

普及啓発

- **一般向け及びビジネス向けの普及啓発施策の実施。**
→ 昨年度、一般向けとしてはオフセットライブを、ビジネス向けとしてはガイドブックの作成及び経営者向けセミナーを実施(今年度施策については現在検討中)。このほか、エコプロダクツ等、環境イベントへのブース出展も行う。

講習会

- **実務者向け研修、オフセット・プロバイダー育成、審査機関実践研修会の開催。**
→ ビジネス向けの研修会として、「事業者」「プロバイダー」「審査機関」それぞれを対象に開催。

マッチング

- **特定地域協議会による、地方でのカーボン・オフセット活性化施策支援。**
→ 10箇所支援を行う。採択された事業者は、地元で1回以上マッチングイベントを開催。
- **普及イベントの集大成として、カーボン・マーケットEXPOを年度末に開催。**
→ 新規出展者の発掘及び来場者の増加に結びつけるために、オフセットの動きが広まっている業界へ戦略的にはたらきかける。

その他(民間団体との連携等)

- **カーボン・オフセット推進ネットワーク(CO-Net)と連携した、カーボン・オフセット大賞の継続と発展。**

今年度のカーボン・オフセット関連施策 年間スケジュール(予定)

カーボン・オフセットをどう広げていくか、クレジット活用を拡大するか⇒マッチングの促進

7月

- ・J-クレジット制度 事務局運営・支援制度 開始
- ・オフセット認証取得支援、ニュートラル認証取得支援 公募開始
- ・地域協議会(地域でのクレジット創出・活用事業者が組織) 公募開始

8～9月

- ・J-クレジット制度 全国説明会 開催
- ・カーボン・オフセット実務者研修 開催

10～11月

- ・地域協議会による各地でのマッチング・イベント 開催
- ・オフセット・プロバイダー育成、審査機関実践研修会 開催

12～1月

- ・エコプロダクツ2013(12月12～14日@東京ビッグサイト) 出展

2～3月

- ・カーボン・マーケットEXPO2014(3月) 開催予定
- ・第3回カーボン・オフセット大賞 受賞者発表

※このほか、イベントやセミナー等の普及啓発施策も随時行う
(特にWEBやメディアを通じた情報発信に力を入れる)

様々な機会を捉えて、新規のクレジット活用を掘り起こす